

特集：魚沼基幹病院の特色を紹介

魚沼基幹病院だより

きかんのみかた



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

vol. **002** 2022年3月31日発行



地域周産期母子医療センター

先天的な病気や未熟性を持って生まれてきた赤ちゃんの観察と治療を行います。
また、産科病棟でお母さんと一緒に過ごしている赤ちゃんの診察、ケアも行っています。

当院の地域周産期母子医療センターは、魚沼圏域唯一の産婦人科と小児科が連携したセンターとして、2015年の開院以来地域のお母さんと赤ちゃんの健康を守ってきました。
地域周産期母子医療センターでは正常な分娩だけでなく、何らかのリスクをかかえながら頑張っている妊婦さんや、ようやく出産を迎えられた妊婦さんや、突然急変するお母さんや赤

ちゃんに対しても、24時間体制で対応する専門施設です。
センターでは分娩室1室、LDR(陣痛分娩産褥回復室)2室(内1室は新型コロナウイルスなどの感染症にも対応できるように改修しました)のほか、新生児に対してはNICU(新生児特定集中治療室)6床、GCU(回復治療室)6床を備え、スタッフ全員で一人ひとりに適した医療を提供しています。

小児科、産婦人科の医師と外来、病棟助産師、NICU看護スタッフは、週1回の合同周産期カンファレンスで情報を共有し、安全なお産に向けて治療計画を立てています。また、各種研修会や異常時シミュレーションなどを通じ、治療や看護のレベルアップに取り組んでいます。



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

救命救急外傷センター

救急外来ERで重傷者の対応とACU(Acute Care Unit)で入院患者の集中治療をしています。
365日24時間対応すべく当院全医師の協力のもと奮闘しています。



救急外来について

当院では救急外来をER(イーアール)と呼んで、軽症～重症までをひろくカバーしています。時間外受診の場合は、あらかじめ電話で、名前と生年月日、いつからどのような症状があるかなどをお伝えください。また、意識障害や麻痺がある転落や交通外傷など重症の場合には、ためらわずにすぐ救急車を呼んでください。救急車を呼ぶ場合には、病院への電話連絡は不要です。

当院では、当番医がまず診察をします。その後、必要があれば専門医に引き継がれます。必ずしも専門医に診てもらえるわけではありませんので、ご了承ください。



救命救急センター(入院)

当院では通称ACU(エーシーユー)と呼んでいますが、いわゆる集中治療室です。重症ベッドと夜間入院用のナイトベッドの2種類があります。重症ベッドでは、人工呼吸器や昇圧剤などが必要な重症者が治療を受けています。ナイトベッドは夜間でまだ確定診断がついていない方、今後悪化する可能性がある方などを受け入れています。仮に急変しても、すぐに対応できる準備をしています。



からだにやさしい治療センター

当院におけるからだにやさしい(低侵襲)治療をさらに発展させ、魚沼地域の患者さんにより良い治療を提供すべく、2021年4月「からだにやさしい治療センター」を開設しました。



当院では2015年6月の開院当初から、各診療科で各領域の専門医によるからだにやさしい(低侵襲)治療を行ってきました。それぞれの診療科で行ってきた治療をさらに推進するために、診療

科の枠組みにとられない組織として、2021年4月に「からだにやさしい治療センター」を開設しました。各診療科が協力した治療体制をとることで、治療手段の柔軟性の確保と患者さんに応じ

た最適な治療法の選択が可能になります。積極的にからだにやさしい(低侵襲)治療を行うことで、患者さんの生活の質を確保しながら、病気の根治を目指します。

からだにやさしい (低侵襲)治療とは?

からだにやさしい(低侵襲)治療とは、従来の治療に比べ、体への負担を小さく抑える治療です。例えば、体の表面を大きく切って手術する代わりに、小さな穴を数カ所あけ、そこから内視鏡と手術器具を入れ、モニターを見ながら行う腹腔鏡手術や胸腔鏡手術があります。他に、消化管内視鏡やカテーテルを用いた治療、放射線治療などもあります。治療後の痛みが軽い、傷が目立たない、入院期間が短い、回復が早いにもかかわらず、十分な治療効果が得られます。患者さんにとっての利点が大きいため、近年急速に普及している治療です。

ロゴマークに込めた思い



ロゴマークには、たくさん色で表現された患者さんのいのちを、わたしたちの手(治療)で包み込み、支えるとの思いが込められています。多様な診療科の専門性を上手に活かし、高いレベルの地域医療を魚沼地域で施行することで、一人でもたくさんのいのちを支えていくことがわたしたちの目標です。

からだにやさしい治療を 行っている9診療科



呼吸器外科・産婦人科・消化器外科・消化器内科・耳鼻咽喉科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・放射線治療科の9診療科が協力して、腹腔鏡手術・胸腔鏡手術・内視鏡治療・カテーテル治療・放射線治療などのからだにやさしい(低侵襲)治療を行っています。

地域がん診療連携拠点病院

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」です。魚沼医療圏における肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんの5大がんを始めとするがん治療体制を更に充実し、魚沼地域のがん医療の中心的な役割を果たしています。

地域がん診療連携拠点病院は、「がん対策基本法」に基づいて全国どこでも質の高いがん医療を提供できるように、2次医療圏に1か所整備されることになっています。新潟県の2次医療圏は下越・新潟・県央・中越・魚沼・上越・佐渡に分かれています。県央と魚沼には地域がん診療連携拠点病院がないために、「空白の医療圏」と呼ばれていました。魚沼基幹病院は、魚沼医療圏のがん患者さんのために、専門ながん医療を提供するとともに、各医療機関と連携協力しながら、相談支援や情報提供を行う病院として、令和3年に地域がん診療連携拠点病院に指定されました。



当院で行える がん治療について

日本に多い5つのがん(肺・胃・大腸・肝・乳がん)の治療はもちろん、頭からつま先までの比較的頻度の低いがんの治療にも対応しています。手術、薬物療法、放射線療法の中から患者さんの状態に応じた治療を提供します。治療方針に迷う場合は、専門の医師を招集して検討会(カンサーボード)を開催し、最適な治療を決定します。当院単独での治療が難しい場合は、他のがん診療連携拠点病院(新潟大学医歯学総合病院や県立がんセンター新潟病院)と連携して治療を行います。

緩和ケアについて

がんと診断された時から、患者さんや家族の体と心の痛みを和らげる緩和ケアを提供するために、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、管理栄養士、リハビリスタッフで構成される緩和ケアチームを整備しています。通院中の患者さんのための、緩和ケア外来も開設しました。かかりつけ医と連携して在宅での緩和ケアにも対応しています。



がん相談支援センター について

地域の医療機関やかかりつけ医と連携協力してがん患者さんの診療を行うために、がん相談支援センターを設けています。主な業務は、がん患者さんの受け入れと状態に応じた紹介、魚沼医療圏内のがん診療の情報の集約と提供、当院と地域の医療機関の間の診療分担や診療計画の作成、がん治療後の療養場所の紹介などを行っています。



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

魚沼基幹病院は、新潟県が設置し、一般財団法人新潟県地域医療推進機構が運営する病院です。

病院に併設される新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターと連携し、地域医療に貢献する医療人の育成にも力を注ぎます。

一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院
〒949-7302新潟県南魚沼市浦佐4132

Tel 025-777-3200(代) Fax 025-777-2811(代)

魚沼基幹病院

検索

hp <https://www.uonuma-kan-hospital.jp/>

facebook.com/UonumakikanHospital twitter.com/UonumaKikanHosp

